

令和5年

8/19 (土)

会場

菰野町町民センターホール
(菰野町大字福村871番地2)

第1部 9時50分～
第2部 14時00分～

入場無料
事前申込不要

第1部

9:50~12:00

映画

『島守の塔』

次世代に語り継ぎたい「島守」

- ▶監督 五十嵐 匠
- ▶CAST 萩原 聖人 村上 淳
吉岡 里穂 香川 京子 ほか



© 2022映画「島守の塔」製作委員会

第2部

14:00~16:00

講演

第4回 よもやま歴史教室

戦争体験を考える
—アジア・太平洋戦争の戦場と兵士—



よしだ ゆたか
一橋大学 名誉教授 吉田 裕 先生

※当日受付にて、住所、氏名、連絡先をご記入ください。※講演内容等は、予告なく変更となる場合がございます。
※感染症の拡大状況により、中止となる場合があります。中止等となる場合は、菰野町役場 HP、防災ラジオ等でお伝えいたします。

【共催】 菰野町よもやま歴史サークル 菰野町 (TEL 391-1160/FAX 328-5995)

菰野町 平和祈念の集い

映画 『島守の塔』



STORY

沖縄戦末期、

本土より派遣された2人の内務官僚がいた。

1人は学生野球の名プレイヤーとしてならし、
戦中最後の沖縄県知事として沖縄に赴任した島田勲。

島田は、度重なる軍の要請を受け内務官僚としての
職務を全うしようとする。

しかし、戦禍が激しくなるにつれ、島田は県政のトップ
として軍の論理を優先し、住民保護とは相反する戦意高揚へと向かわ
せていることに苦悩する。

そして、多くの住民の犠牲を目の当たりにした島田は
「県民の命を守ることこそが自らの使命である」と決意する。

もう1人は、警察部長の荒井退造。
島田と行動を共にし、職務を超え県民の命を守ろうと努力する。
実は、沖縄戦で2人はそれぞれ重い十字架を背負っていた。荒井は、

子供など県民の疎開を必死に推し進めていた。

その矢先、本土に向かって学童疎開船「対馬丸」が
米軍の攻撃に遭い、数多くの子供たちが犠牲となった。

また、島田は知事として、軍の命令で鉄血勤皇隊や
ひめゆり部隊などに多くの青少年を戦場へと向かわせていた。

2人はそれぞれ十字架を背負いながらも、
戦禍が激しくなるのに伴い、必死に県民の疎開に尽力し
多くの沖縄県民を救っていった。

一億総玉砕が叫ばれる中、島田は叫んだ。

「命どう宝、生きぬけ！」と。



© 2022映画「島守の塔」製作委員会



講演 第4回 よもやま歴史教室

戦争体験を考える

—アジア・太平洋戦争の戦場と兵士—

「老後」の夢の行方

(戦災資料センター・ニュースNo. 38より)

昨年3月に37年間勤めた一橋大学を退職しました。
授業に追われる生活から解放されて少しほっとしています。
退職後は各地の平和博物館をまわってみようと考えていたの
ですが、新型コロナウイルスの影響で思うにまかせません。

安城市歴史博物館の企画展、「描かれた戦争」も見学に行くつ
もりでしたが、結局断念しました。警察官だった桜井純さんが描
かれた戦争体験画に関する企画展です。名古屋空襲に関する貴重
な記録でもあるだけに本当に残念です。それでも感染防止に気を
つけながら、近隣の施設を訪れるようにしています。

昨年11月には千葉県館山市にオープンしたばかりの私設図書
館、「永遠の図書館」に行ってきました。ここでは、陸軍大尉
だった飯塚浩さん(故人)の手記と蔵書を閲覧することができます。
12月には、「ヒロシマ連続講座」の竹内良男さんの車に乗
せていただいて、武蔵村山市にある「PTSDの日本兵と家族の
交流館・村山お茶のみ処」に行ってきました。戦争で心の傷を
負った元日本兵の家族の交流の場です。館長の黒井秋夫さんは、
とてもエネルギーが豊富な方でした。

感染が何とか収束して、「老後」のささやかな夢を実現できる
日がめぐってくることを願っています。



講師 一橋大学 名誉教授

よしだ ゆたか

吉田 裕 先生



【経歴】

1954年11月2日生まれ。埼玉県出身。
東京教育大学文学部卒業。
一橋大学大学院博士課程単位取得退学。
一橋大学名誉教授。同時代史学会理事。
日本の戦争責任資料センター機関誌編集長。
公益財団法人政治経済研究所理事。
日本近現代軍事史、日本近現代政治史を専攻。
主な著書『昭和天皇の終戦史』(岩波新書、1992年)、
『日本人の戦争観』(岩波書店、1995年)、
『現代歴史学と戦争責任』(青木書店、1997年)、
『日本の軍隊』(岩波新書、2002年)、
『アジア・太平洋戦争』(岩波新書、2007年)、
『兵士たちの戦後史』(岩波書店、2011年)、
『現代歴史学と軍事史研究』(校倉書房、2012年)、
2018年、著書『日本軍兵士—アジア・太平洋戦争の現実』
(中公新書)でアジア・太平洋賞特別賞、新書大賞2019を受賞。
現在、東京大空襲・戦災資料センター館長。